

大崎市流地域自治組織による地域づくりが始まって10年が経ちました。これまでに
行われてきた、地域や地区の特性を生かした個性あふれる地域づくりを紹介します。

3 岩出山地域 池月地域づくり委員会

市とパートナーシップを結び 地域課題解決のモデルケースを目指す

地区内共通の事務局「池月サポートセンター」

池月地域づくり委員会では、平成21年から約1年間をかけ、12回以上にわたって、地区内の各種団体代表者や住民によるワークショップを開催しました。同委員会と既存団体との共存や役割分担などについて検討が重ねられ、団体間の役員重複による個人への過大な負担増や担い手不足による事務局機能の弱体化などが明確となりました。



▲1年間にわたって行われたワークショップ

これらの課題を解決するために、地区民の話し合いによって導き出されたのが、地区内共通の事務局「池月サポートセンター」の設置でした。

地域課題解決型への転換

センターには地域づくり委員会で雇用した専任職員を配置し、各団体からの依頼に基づき、会議資料の作成や印刷などの事務作業を安価に請け負って団体運営を支えるほか、高齢者宅の除草や除雪を支援する「池月を助け隊」の窓口を兼ねるなど、池月地区における新しい地域づくりのあり方を模索し続けてきました。

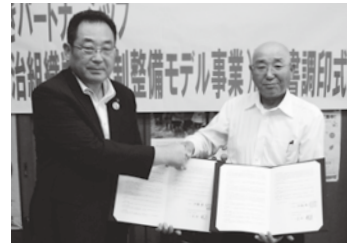


▲安価な料金で高齢者などのお宅の雪かきなどを行う「池月を助け隊」

地区の皆さんの真剣な話し合いによって導き出された池月サポートセンターの設置が、「イベント開催型」であった池月地域づくり委員会を「地域課題解決型」の組織に転換させる出発点となりました。

市とパートナーシップを締結

今年6月、「大崎市地方創生に伴う地域自治組織戦略体制整備モデル事業」第1号として、市と池月地域



▲協定書を取り交わす安倍会長と伊藤市長

づくり委員会との間で、パートナーシップ協定が締結されました。このモデル事業は、市との連携を密にしながら、概ね3年の期間で、地域自治組織の組織体制強化と、地域の特性や資源を活かし、地域ニーズに即した事業の仕組みづくりの構築を推進するものです。現在、その事務局を池月サポートセンターが担い、2人の専任職員が「地域支援コーディネーター」として、地区内の地域づくりを支えています。

新たに、生活環境整備への取り組みとして、空き家対策支援事業をスタートさせ、地域ビジネス開発支援として、外国人観光客



▲地区のさまざまな事業を支援する2人の地域支援コーディネーター

の対応にも取り組み始めました。また、地域防災への支援として、防災マップづくりが始まり、地域課題を解決する手法としてのコミュニティビジネスのあり方についても、検討が始まっています。

池月地域づくり委員会会長の安倍優あべ ゆまさんは「地区公民館とサポートセンターの運営を両輪に、地区民と一体となって、楽しくいきいきと地域づくりを進めていきたいですね」と話してくれました。



田尻グリーン・ツーリズム委員会
副会長 小野寺良子さん

活動の概要

都市と農村の交流促進から、農産物や地場産品の販路拡大を積極的に行い、農村の新たな所得機会の創出と地域の活性化を目的に、平成11年4月1日に設立。現在、会員数は68人。さくらの湯に隣接する宿泊施設「ロマン館」を活動拠点に、年間を通じて各種体験の受け入れを行っている。

出会いと笑顔がわたしたちの原動力

～田尻グリーン・ツーリズム委員会～

田尻グリーン・ツーリズム委員会では、都市と農村の交流を通じた、地域の活性化を目指しています。そば打ちやソーセージ作り、米粉を使ったピザづくりなどの農産加工体験、農産物の直売のほか、エコ・ツーリズムとしての蕪栗沼の雁の観察会など、これまで地域が大切に育ててきた農業や雄大な自然などの宝を、最大限生かした事業を展開してきました。



▲今年の田植え体験の様子

平成20年からは、東京や県内の中学校の「教育旅行」の受け入れも行っています。農村生活のありのままを体験してもらうため、田植え作業と、地区内の協力家庭のお宅に分散して、民泊を行っています。

初めて足を踏み入れた田んぼの感触に大きな歓声が響きわたり、中には、田んぼにダイビングする子もいて、都会ではなかなかできない体験に子どもたちの笑顔があふれます。そのような出会いと笑顔が、

わたしたちの励みです。大きな原動力になっています。

グリーン・ツーリズムが、地域の活性化や移住・定住の促進、観光振興などに果たす役割は決して小さくありません。現在は、学習体験や農村体験の範囲で児童・生徒とその引率者、外国からのお客さんのみ受け入れることができる民泊ですが、農村は都市部のあらゆる年代の人たちにとって得難い体験の宝庫です。今後も、民泊を含めた都市と農村の交流のあり方について、研究していきたいと思ひます。

日本一贅沢な時間が大崎にある

～ふるかわ産直厨房 食・楽コンサート～

大崎地方は「ササニシキ」「ひとめぼれ」の誕生の地であり、近年では、仙台牛率(仙台牛として認められる割合)が県内1位になるなど、古くからたくさんの誇れる食材があります。

今から約15年前、認定農業者連絡協議会の活動で、古川地域の魅力ある食材が、地元の人にあまり知られていないのではないかと感じるがありました。また、米価の下落、後継者不足など、さまざまな問題を抱えた農家に、元気を取り戻したいと考え、その起爆剤は何か模索していました。



▲昨年の様子

そのとき、大崎出身の音楽家が、全国で、世界で活躍していることを知り、わたし自身が大の音楽好きということもあって、彼らのことを地元の人にもっと知ってもらいたいと思いました。そこで、大崎が誇る農業と音楽を一度に味わえる機会があれば、日本一贅沢な時間を提供できるのではと思いつき、「第1回 ふるかわ産直厨房～食・楽コンサート～」の開催にいたりしました。

コンサートでは、大崎産の食材を使った料理が提供され、約120人の客席は毎年満員です。近年は、市外からの参加者やリピーターも多く、コンサートが地元に着定してきたと実感しているところです。

現在は、古川地域で年に1回のコンサート開催ですが、今後、市内全域に大崎の魅力を発信する活動が広がればうれしいです。これからもおいしい食材と一流の音楽で、地元を笑顔にしていきたいと思ひます。



大崎市認定農業者連絡協議会
初代会長 菅原 勘一さん

活動の概要

大崎の魅力ある食材を、地元へ、全国へ発信し、地域農業の発展を目的として活動を展開。平成14年から毎年開催している「ふるかわ産直厨房～食・楽コンサート～」は、生産者と消費者の交流の機会ともなっている。今回は、平成29年2月に開催される。